



元気いっぱい、笑顔いっぱい、活力みなぎる 朝二の子



朝霞第二小だより

【学校教育目標】 進んで学習する子(知) 仲良く助け合う子(徳) 健康で明るい子(体)

〒351-0007 朝霞市岡3丁目16番13号 TEL 048-461-0042 FAX 048-467-4735

E-mail 2shou@asaka-c.ed.jp ホームページ <http://www.asakadai2shou.city-asaka.ed.jp>

令和2年12月25日〈冬休み号〉 児童数 702名 (12/24現在)

温かい子育ての輪を

- 子どもとともに -

校長 谷井 喜信

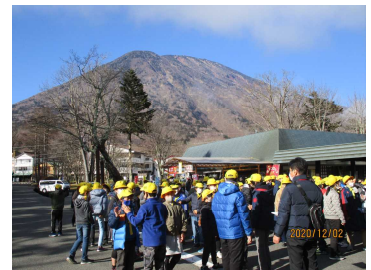
冬至が過ぎ、私達の目を楽しませてくれた木々の紅葉もその葉を落として冬ごもりの支度を始めました。この一年、保護者・地域の皆様方には二小の教育活動へのご支援・ご協力、また、子供達が健やかに成長できるようにと温かいご指導を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

さて、中庭の銀杏が色づく11月28日(土)、岡町内会・向山自治会・東町内会のご協力を得てアルコール消毒を行いました。約45人余りの皆様にご参加いただき、特別教室11か所の机や椅子などを除菌ウェットシートで拭き取ってもらいました。当日は朝霞市役所の皆様にもご配慮をいただきました。約1時間余りの作業でしたが、子供達が安心して学べる環境づくりのお力添えありがとうございました。この事業は、地域の子供達のために何かできることはないだろうかという思いから、また学校と地域の連携のモデルケースとして参考にしていただければという考えから今回の実施になったものです。今後とも、次代を担う子供達が心豊かに逞しく育つよう学校・家庭・地域が心一つにして様々な活動に取り組んでまいりたいと思います。



【町内会による除菌支援】

12月2日～3日には奥日光方面へ修学旅行に行ってきました。天候にも恵まれ、いろは坂を上ると雄大な男体山が私達を迎えてくれました。日光の自然や文化、伝統にふれ、また、寝食を共にすることで友情を深めることができました。コロナ禍での実施となり大変心配されましたが豊かな学びができたこと、保護者をはじめ関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。



【思い出の修学旅行】

「学校では知育を、家庭では養育を、地域では徳育を」と言われます。学校・家庭・地域が知恵と力を合わせて互いに学び合い、温かい子育ての輪を広げていければと思います。年末年始はホームステイで家族の絆を一層深め、ご家族おそろいでよいお年をお迎えください。

チョウの卵は、生みつけられさえすれば幼虫となり、さなぎとなり、やがて美しいハネを広げるだろう。だが、人間はそうはいかない。一人の小さないのちが一人の人間らしい人間になるには、子ども自身とその周辺の人たちの大変な努力が必要だ。人間は生まれながらにして人間であるのではなく、人間に育て上げられるのだといえよう。

「子どもとともに」という美しい言葉がある。この言葉の意味が、ややもすると私たち教師や親が子どもに近づき、子どもの心に近寄ることに力点が置かれたきらいがありはしないだろうか。

教育は子どもに近づき、子どもを理解すると同時に、子どもを高いレベルに引き上げる営みである。人間に育て上げる営みである。子どもと格闘し、子どもと対決し、早く「俺を乗り越えろ」と絶えず励まし高める営みでもある。「子どもとともに」というソフトな言葉が、子どもと仲よしになったり、ともに笑いともに泣いたりすることのみに受け取られたところに、私は教育の甘い一面を見る。教育の世界は、厳しくて、温かくて、そして切ない世界である。厳しさを伴わない温かさを、私は信用しない。子どもとともに生きるということは、今を生きるということのみを意味しない。教育の営みは、子どもがこれから生きていく未来を保障する役割を担っている。子どもたちが、やがて大人になり、社会の荒波に直面したとき、たくましく適応し生きていくための、生きて働く本当の意味でなくてはならない。そう考えると、教育は厳しいものにならざるを得ないのである。

厳しさとは、もちろん教師や親の権力によって、子どもを抑え込むことではない。子どもに迎合したり、妥協したりせず、首尾一貫した生き方を示すことが大切である。

変化の激しい今日の社会の中で、私たち大人自身が自信を失いかけてもいる。だが、「私はこう思う」「こう生きてきた」でいい、人間の心について生き方について、子どもに語りかけることが何よりも大切なことであると、私は思っている。これは「押しつけの教育」ではない。「自分を出す教育」である。〔元愛媛県市町教育委員会連合会長：金本房夫氏(金本氏が校長時代に出された通信からの抜粋)〕